



深い傷が、じゅくじゅくするのはなぜなの

傷がなおるのに、時間がかかったりするため

傷ができると、血はすぐにかたまって傷口をふさぎ、出血したりばい菌などが入ってきたりするのを防ぎます。これが「かさぶた」です。

次に、傷口から入ったばい菌などを殺すために、白血球などが集合し、傷が化のう(うむ)するのを防ぎます。そして、傷口をなおして元通りにするために、皮ふは新しい細胞をどんどん作り、傷口がふさがって傷はなおり、「かさぶた」は自然にとれていきます。このように、生き物の体には、傷をなおして、もとのようにする能力があるのです。

しかし、傷が深い場合には、傷をなおすための白血球などのはたらきが間に合わず、傷口が化のうしてしまったり、傷をなおすのに時間がかかったりするため、傷がじゅくじゅくすることがあるのです。

生き物の体には、自然治癒力がある

生き物の体には、自分の体を、自分で守るためのはたらきをする能力が、自然に準備されています。

それは、体の外から、ばい菌や体に必要のないものが、体に入ってきたりすると、これを取り除いたり、けがなどをすると、傷をなおして、もとのようにする能力です。

このように、傷や病気を、自分の体にある能力でなおすことを、自然治癒力といっています。つまり、体に自然治癒力があるため、けがをしても、傷はひとりではなおるのです。

(監修・保志 宏)

